

11月25日(金)

A会場

B会場

C会場

理事会

16:00-18:30

責任者:村山事務局長

ワークショップ(第二期タスクグループ立ち上げ、30周年記念に向けた活動の検討)

18:30-20:30

責任者:岸本理事

TG会議(リスク教育)

15:30-18:00

サテライトセッション「リスク講習お悩み座談会」

責任者:リスク教育TG 金澤伸浩(秋田県立大学)

11月26日(土)

11月26日(土)

A会場	B会場	C会場
<p>企画セッション-A1 9:10-10:40 リスク評価技術の制度の連携を通じたリスクガバナンス 座長:小島直也(大阪大学大学院)</p>	<p>一般演題-B1 ばく露評価 9:10-10:30 座長:中久保豊彦(お茶の水女子大)</p>	<p>一般演題-C1 リスクコミ・リスク認知 9:10-10:30 座長:竹下広宣(名古屋大学)</p>
<p>1 リスク評価技術と制度の連携を通じたリスク評価の展開 小島直也(大阪大学大学院工学研究科)</p>	<p>1 室内製品暴露評価ツール(ICET)の開発 東野晴行(産業技術総合研究所)</p>	<p>1 NHKテレビ・ドキュメンタリー番組が描いた公害病・健康危機 ~リスクコミュニケーションとしての患者の語り~ 加藤美生(東京大学)</p>
<p>2 家庭におけるマテリアルフロー・ストック由来化学物質のリスク評価 薛 面強(大阪大学大学院工学研究科)</p>	<p>2 室内製品暴露評価ツール(ICET)を用いた製品事故に対する暴露評価ケーススタディ 梶原秀夫(産業技術総合研究所)</p>	<p>2 手続きの公正と金銭補償の提示が指定廃棄物長期管理施設受容に及ぼす影響 大沼 進(北海道大学)</p>
<p>3 リスク評価における相互依存性解析プロトタイプモデルを用いた冷媒・空調機器に関する政策評価 町村 尚(大阪大学大学院工学研究科)</p>	<p>3 複数・複雑組成の化学物質への暴露を考慮したリスク評価手法の開発に向けて 頭士泰之(産業技術総合研究所)</p>	<p>3 リスクトレードオフとELSI:価値の不確実性にどのように取り組むべきか 加納寛之(大阪大学大学院)</p>
<p>4 SOMによる化学物質の分類結果から見た事例研究の位置づけ・意義に関する考察 周 靚(大阪大学大学院工学研究科)</p>	<p>4 火葬炉施設労働者における粒子状物質の曝露評価 松井康人(京都大学安全科学センター)</p>	<p>4 情報源に対する信頼度の変化~アンケート調査の結果から 佐野和美(国立環境研究所)</p>
<p>5 制度連携を含むリスクガバナンス手法の検討:都市計画法と化審法の連携に関するケーススタディ 杉之尾大介(大阪大学工学部)</p>		
<p>企画セッション-A2 10:40-12:00 座長 藤井健吉、平井祐介 化学物質のリスク評価・管理における多面的な役割 —新たなリスク研究の方向性と可能性—</p>	<p>一般演題-B2 リスク分析・管理 10:30-11:50 座長:松井康人(京都大学安全科学センター)</p>	<p>企画セッション-C2 10:30-11:50 リスクマネジメントの実務 座長:前田恭伸(静岡大学)</p>
<p>1 化学物質のリスク評価・管理における多面的な役割 ~本セッションのねらい 藤井健吉(花王安全性科学研究所)、平井祐介(経済産業省資源エネルギー庁)</p>	<p>1 地震に伴うPRTR対象物質の流出による浄水場機能への影響評価:危機時専用の水道水質基準に対する考察 中久保豊彦(お茶の水女子大学)</p>	<p>1 公的機関が作成したリスクコミュニケーションマニュアル・ガイドにおける住民の位置づけについて 竹田宜人((独)製品評価技術基盤機構)</p>
<p>2 化学物質管理規制のリフォーム ~TSCA改めThe Frank R. Leutenberg Chemical Safety for the 21st Century Actの特徴 赤淵芳宏(名古屋大学情報文化学部)</p>	<p>2 遼寧省本溪市におけるPM2.5削減策「青空工事2015」の費用便益分析 宮 一平(北九州市立大学)</p>	<p>2 熊本地震関連新聞記事から見る被災地状況の時系列変化 井口雄亮(浜松市危機管理課)</p>
<p>3 事業者のSAICM(国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ)推進活動におけるリスク評価 本多泰揮(花王安全性科学研究所)</p>	<p>3 騒音曝露と虚血性心疾患の関連に関する研究-東京都葛飾区の高齢者を対象とした疫学調査- 岸川洋紀(武庫川女子大学)</p>	<p>3 大規模災害時のための乳幼児用防災パックの開発 原田博(NPO法人はままつ子育てネットワークびっぴ)</p>
<p>4 化学物質管理におけるリスク評価と管理措置オプション 井上知也(みずほ情報総研)</p>	<p>4 災害時の環境調査における対象化学物質の選定方法の検討 小山陽介(国立環境研究所)</p>	<p>4 企業におけるリスクマネジメント活動事例(その2) 古沢啓一(新明和工業)</p>

昼食 12:00 - 13:00

A会場	B会場
<p>大会セッション-A3-パネル討論 13:00-15:00 リスク報道におけるメディアと専門家との連携のあり方 パネリスト 高橋真理子(朝日新聞科学コーディネーター) 井上能行(東京新聞論説委員)</p>	

11月26日(土)

小島正美(毎日新聞編集委員)

滝 順一(日経新聞編集委員)

新山陽子(日本リスク研究学会会員、京都大学大学院農学研究科教授、前本学会長)

座長

関澤 純(日本リスク研究学会名誉会員、元徳島大学教授、元本学会長)

理事会セッション-A4

15:10-15:40

学会を取り巻く課題に関する報告

責任者: 前田恭信会長

International Session-A5

15:45-17:05

For promoting the collaboration of risk research in East Asia

Speakers

Dong-Chun Shin (Yonsei University)

Kuen-Yuh Wu (Taiwan University)

Shouji Tsuchida (Kansai University)

Akihiro Tokai (Osaka University)

Chair

Yasunobu Maeda (Shizuoka University)

B-3 タスクグループ活動報告

15:45-16:45

座長: 岸本充生(事業委員会委員長)

リスク用語TG: 岸本充生(東京大学)

リスク教育TG: 金澤信浩(秋田県立大学)

リスクコミュニケーションTG: 竹田宣人(横浜国立大学)

レギュラトリーサイエンスTG: 永井孝志(農研機構)

ポスターセッション 17:10-18:20 (ポスター会場, 408/409)

懇親会 18:30-20:30 (宗麟館)

ポスター発表 : Poster Viewing: 11月26日(土)17:10-18:20

- P-1 田中 豊 大阪学院大学
NBT利用農作物の受容を規定する心理モデル
- P-2 吉田 浩子 東北大学
原発災害が宮城県の母子に与えた心理的影響
- P-3 金澤 伸浩 秋田県立大学
DNA解析技術を用いた住宅のリスク評価手法の開発
- P-4 松井 大 京都大学
子供用玩具中重金属のリスク判別手法の検討
- P-5 内藤 博敬 静岡県立大学
ウランバトル市におけるモータリゼーションが及ぼす遊牧家畜への健康リスク
- P-6 中谷内 一也 同志社大学
リスク評価の不確実性開示が信頼に及ぼす影響
- P-7 山口 文恵 広島大学大学院
信頼と手続き的公正感が原子力発電所再稼働受容に及ぼす影響の変化
—精緻化見込みモデルの観点から—
- P-8 吉田 悦子 東京大学大学院新領域創成科学研究科
多様性が失われることへのリスク
—絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存法改正を事例に—
- P-9 伊川 美保 京都大学大学院
感情ヒューリスティックに基づくリスク認知: ニューメラシーと批判的思考態度による抑制効果
- P-10 頭士 泰之 産業技術総合研究所
室内製品暴露評価ツール(ICET)を用いた日常生活における暴露評価ケーススタディ - 難燃剤を事例として -
- P-11 小林 麻衣子 明治大学危機管理研究センター
首都圏在勤女性の防災行動に関する研究(日)東日本大震災の経験から
- P-12 小林 麻衣子 明治大学危機管理研究センター
首都圏在勤女性の防災行動に関する研究(月)帰宅困難経験とその後の防災対策
- P-13 轟 晃成 大阪大学大学院工学研究科
仮想都市における新製品普及のマテリアルフロー・ストックに由来する化学物質のリスク評価
方法の検討
- P-14 川島 洋人 秋田県立大学
炭素安定同位体比を用いたマラソン乳剤の異同識別
- P-15 飯野 麻里 北海道大学
補償の交換フレームが忌避施設の受容に及ぼす効果
- P-16 竹沢 弘輝 パナソニック株式会社
樹脂製品からの規制化学物質の経皮・吸入暴露量評価手法の検討
- P-17 渡邊 優香 九州大学
原子力関連専攻学生のリスク受容度について
- P-18 岡部 康成 帯広畜産大学
原子力発電の社会的受容における原子力関連施設就労者と大学生の比較
- P-19 鈴木 聡 福島県環境創造センター
福島県の水環境における現状の課題認識と傾向
- P-20 藤岡 勝之 大阪大学
DALYsを用いたリスク評価手法における用量反応推定に利用可能な毒性指標種の拡大へ向
けた考察
- P-21 吉増 純弥 大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻
蛍光灯を比較対象としたLED導入によるヒト健康リスクの評価
- P-22 高橋 蓮 京都大学大学院

- P-23 堀本 祥平 ヘモグロビンタンパクを用いた付加体の同定
大阪大学
- P-24 長屋 太樹 有害性及び排出・曝露特性に基づく 優先評価化学物質分類のための主成分分析
京都大学工学研究科
- P-25 佐田谷 典郎 ICP-MS気体試料導入装置を用いた製品中ナノマテリアルに対する曝露評価法の開発
Exposure Assessment Method for Products Containing Nanomaterials Using Gas Sample
Introduction System for ICP-MS
京都大学大学院工学研究科
- P-26 豊田 真弘 ステンレス溶接ヒュームの粒径別元素分析と曝露評価
大阪大学
- P-27 Antoine Francis OBAME NGUEMA 地震災害時の給水停止リスクに備えた化学物質流出防止策の評価: 淀川水系を対象として
Graduate School of Engineering Osaka University
Occupational exposure and strategy reduction of benzene in oil storage and distribution
facility: case of Gabon oil storage and distribution facility

11月27日(日)

11月27日(日)

A会場	B会場	C会場
<p>企画セッション-A6 9:00-10:20</p> <p>身近で見過ごされてきたリスク2 座長:村上道夫(福島県立医科大学), 平井祐介(経済産業省資源エネルギー庁)</p> <p>1 リスクのモノサシで測る身近なリスクランキング 永井孝志 (農研機構)</p> <p>2 自殺の総合的対策に向けたリスクアセスメント 竹林由武 (福島県立医科大学)</p> <p>3 近年における美容・化粧品リスク顕在化の実態 西 一総(横浜国立大学大学院博士課程)</p> <p>4 コメンテーター 岸本 充生(東京大学公共政策大学院)</p>	<p>一般演題-B4 リスク分析・管理 9:00-10:20</p> <p>座長:東海明宏(大阪大学)</p> <p>1 日米欧の水素ステーションに関するリスク管理手法の比較 小野恭子(産業技術総合研究所)</p> <p>2 水素ステーションのセキュリティリスク分析 中山稷(横浜国立大学)</p> <p>3 水素輸送システムの事故シナリオ解析 大待達郎(広島大学大学院)</p> <p>4 有機ハイドライド型水素ステーションのリスク評価枠組み構築 恒見清孝(産業技術総合研究所)</p>	<p>一般演題-C3 リスク認識・社会リスク 9:00-10:20</p> <p>座長:神田玲子(放射線医学総合研究所)</p> <p>1 被災者生活支援相談におけるリスク評価の必要性と支援情報共有の事例 池田真幸(防災科学技術研究所)</p> <p>2 震災後の放射線リスクの住民の受け止め方について—福島県伊達市住民へのインタビュー調査結果— 藤長愛一郎(大阪産業大学)</p> <p>3 福島原発事故の被災者を主人公とする復興の在り方と情報 関澤 純(特定非営利活動法人食料協)</p> <p>4 地域における鳥獣被害の社会リスク構造 諫山憲司(広島国際大学)</p>
<p>企画セッション-A7 10:30-12:00</p> <p>今なら温泉で泳げます ☺ 温泉がリスクと向き合うとき 座長:竹田宜人(横浜国立大学)</p> <p>1 本セッションの趣旨 竹田宜人(横浜国立大学)</p> <p>2 別府温泉の地学的成因と防災 由佐 悠紀(京都大学名誉教授)</p> <p>3 なぜ、温泉で泳げるのか(熊本地震と対策) 西田 陽一(別府温泉別府の宿白菊 代表取締役社長)</p> <p>4 温泉と放射線 神田玲子(放射線医学総合研究所)</p>	<p>一般演題-B5 リスク分析・管理 10:30-11:50</p> <p>座長:島田洋子(京都大学)</p> <p>1 先端科学技術を対象とした相対評価手法の構築—水素エネルギーシステムを事例とした試行— 稗貫峻一(横浜国立大学)</p> <p>2 新型インフルエンザの社会的リスク評価の試み 吉田 護(長崎大学)</p> <p>3 子供用玩具に含まれる重金属類の誤飲リスク評価 藤森 崇(京都大学)</p> <p>4 食品由来のアクリルアミド摂取量の統計的推定 河原純子(国立環境研究所)</p>	<p>一般演題-C4 リスク認識・社会リスク 10:30-11:50</p> <p>座長:小野恭子(産業技術総合研究所)</p> <p>1 大気中発がん性化学物質の許容リスクレベル選択に対する例示の影響について 村山留美子(神戸大学)</p> <p>2 杞憂の食品リスクに対する消費者認知パイアス 山崎 毅(NPO法人食の安全と安心を科学する会)</p> <p>3 仮想的な原子力発電所事故における飲食物由来の被ばく量と希釈率の推定 村上道夫(福島県立医科大学)</p> <p>4 東京電力福島第一原子力発電所事故後の学校給食における福島県産食材利用の実態と課題 関谷直也(東京大学大学院)</p>

昼食 12:00 - 13:00

A会場	B会場	C会場
<p>大会セッション-A8-シンポジウム 13:00-15:00</p> <p>リスクのものさし 座長:甲斐倫明(大分県立看護科学大学)</p> <p>1 健康リスク評価から見たものさし 津金昌一郎(国立研究開発法人国立がん研究センター)</p> <p>2 環境化学物質のリスク管理から見たものさし 蒲生昌志(国立研究開発法人産業技術総合研究所)</p> <p>3 リスク心理から見たものさし 中谷内一也(同志社大学)</p> <p>4 リスクのものさしとしての確率と時間 — 人の認知の観点から 広田すみれ(東京都市大学)</p>		

11月27日(日)

5 パネル討論

一般演題-B6 リスク分析・管理

15:00-16:00

座長:永井孝志 (農研機構)

1 自然災害の危険性等の地域特性と防災対策状況に応じた防災対策手法推奨についての研究

三浦伸也 (防災科学技術研究所)

2 米国のTSCA修正の全貌と日本の化学物質管理法制などの是正の必要性

星川欣孝 (ケミカルリスク研究所)

3 北九州市の火災状況と地区特性に関する統計分析:火災件数と焼損面積に着目して

島崎健大 (北九州市立大学)

一般演題-C5 リスコミ・リスク認知

15:00-16:00

座長:関谷直也 (東京大学大学院)

1 被災地でなされた放射線影響に関するリスクコミュニケーションの評価

吉田佳督 (修文大学)

2 防災教育における学校と地域のリスクコミュニケーションの実践-岩手県大船渡市立越喜来小学校の事例-

李 泰榮 (防災科学技術研究所)

3 被災地産乳需要回復に資する実効的コミュニケーション手法の開発

竹下広宣 (名古屋大学)

表彰式

16:00-16:30

司会:久保英也副会長